

2024年度 第2四半期（中間期）決算説明会

2024年11月8日

株式会社ツムラ

01

長期経営ビジョン2031の実現に向けて

02

2024年度 第2四半期（中間期）決算概況

一人ひとりの、生きるに、生きる。 TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031

一人ひとりのライフステージ・症状・遺伝体質・生活環境等に合わせて、漢方薬・中薬をはじめとした製商品・サービスをエビデンスベースで提供することにより、人々のwell-beingに貢献している状態

ツムラグループの価値創造領域

—— 未病三防 ——

治 療

治未病
未病先防

重症化抑制
既病防変

再発抑制
癒後防復

養 生
(予防)

VISION 2031で実現すること

1. 診療領域基本処方すべてを処方する医師を50%
2. 漢方標準治療の拡大と漢方治療の個別化
3. 未病の科学化 ～ 未病三防（未病先防・既病防変・癒後防復）
4. 中国事業の基盤構築（中国事業比率50%以上）
5. 漢方バリューチェーンのDX化
6. パーパス経営・理念経営・ビジョン経営の実践

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031実現へのロードマップ



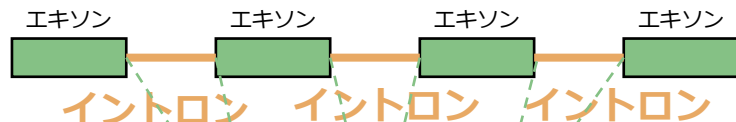
未病の科学化：未病指標の開発と治療方法の提案

第1期中期経営計画
(2022～2024)

研究フェーズ

情報の収集/解析

mRNA前駆体

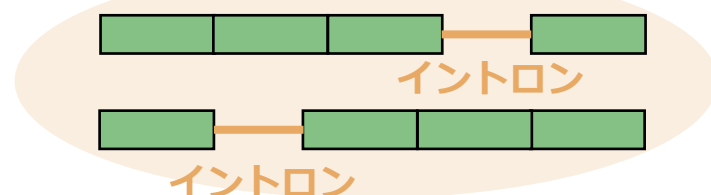


正常mRNA

スプライシング



イントロン保持 (イントロン・リテンション)



遺伝子発現時の異常や
生体ストレス応答調節のために、
イントロンが保持されることがある

第2期中期経営計画
(2025～2027)

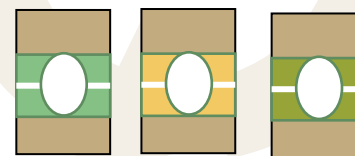
開発フェーズ

効果検証研究

「疾患」との関係性解明と
治療効果の確認



統合的・網羅的解析



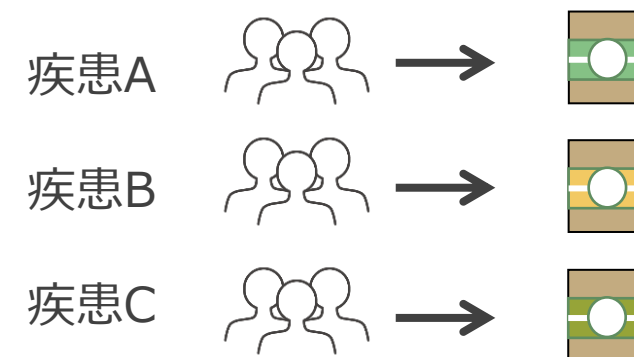
漢方製剤の薬効評価

第3期中期経営計画
(2028～2031)

社会実装

診断と投薬へ適用

未病の診断法の確立と
治療手段の提案



成果①

イントロン・リテンションの分析により、イントロン・リテンションがうつ状態の優れたマーカーになる可能性が見いだされた。

成果②

漢方薬投与により、遺伝子でのイントロン・リテンションの回復が観察された。

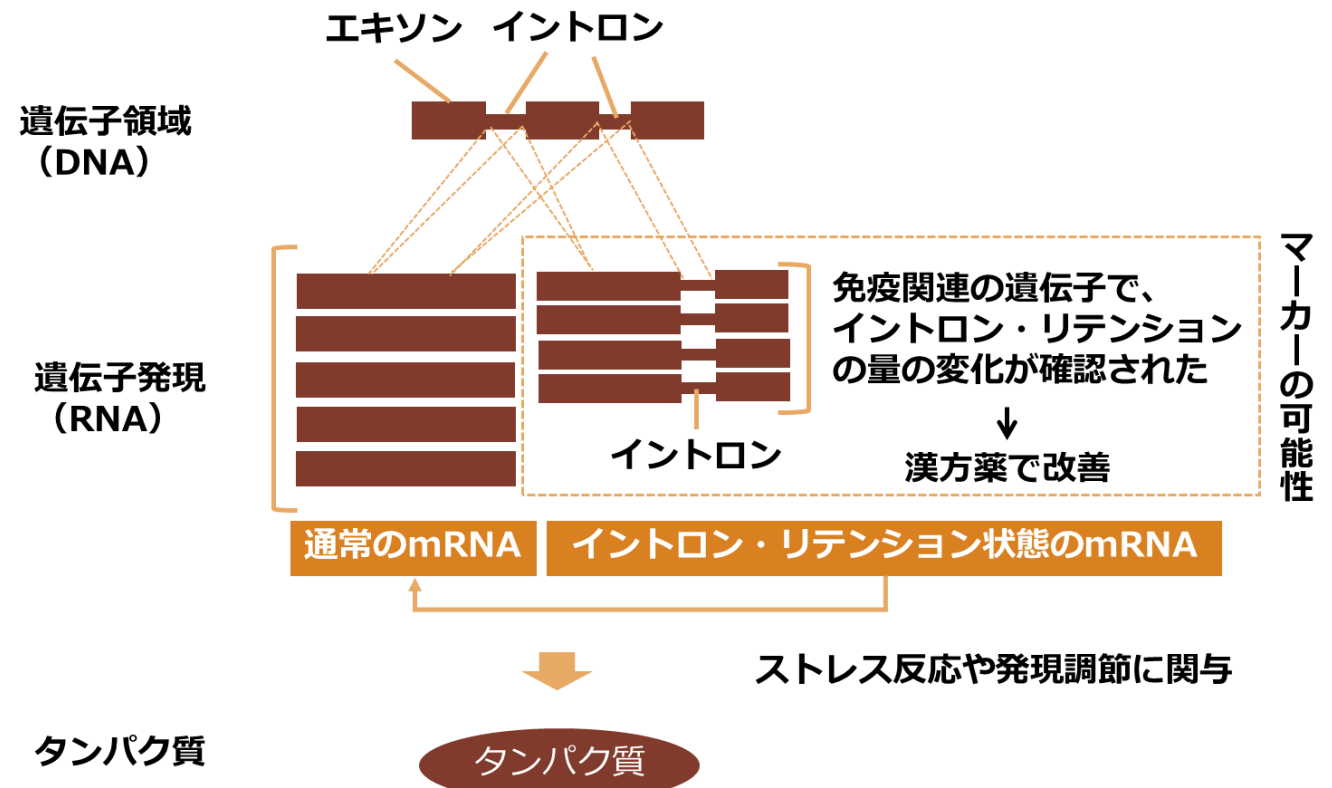


Intron retention as an excellent marker for diagnosing depression and for discovering new potential pathways for drug intervention

Norihiro Okada^{1*}, Kenshiro Oshima¹, Akiko Maruko¹,
Mariko Sekine^{2,3}, Naoki Ito³, Akino Wakasugi^{2,3}, Eiko Mori³,
Hiroshi Odaguchi³ and Yoshinori Kobayashi^{1,3}

¹School of Pharmacy, Kitasato University, Minato-ku, Tokyo, Japan, ²Kitasato University Kitasato Institute Hospital, Minato-ku, Tokyo, Japan, ³Oriental Medicine Research Center, School of Pharmacy, Kitasato University, Minato-ku, Tokyo, Japan

Frontiers in Psychiatry誌掲載
(2024 Sep 19:15:1450708.)



中国事業：各プラットフォーム（PF）の進捗

第1期中期経営計画
2022～2024年度

第2期中期経営計画
2025～2027年度

第3期中期経営計画
2028～2031年度

製剤PF

中成薬事業への参入
中成薬企業のM&A
古典処方申請

中成薬事業の基盤構築
外部販売比率50%超

中成薬企業として
ブランド確立
業界TOP10

売上高イメージ
70億元以上

生薬PF

生薬・飲片・「薬食同源」
製品の売上拡大
外部販売比率50%超

生薬・飲片・「薬食同源」
製品のブランド確立
公立病院販路の拡大
(M&Aを含む)

業界の発展をリード
する生薬・飲片企業
中国トップシェア

売上高イメージ
30億元以上

研究PF

中薬研究センター設立

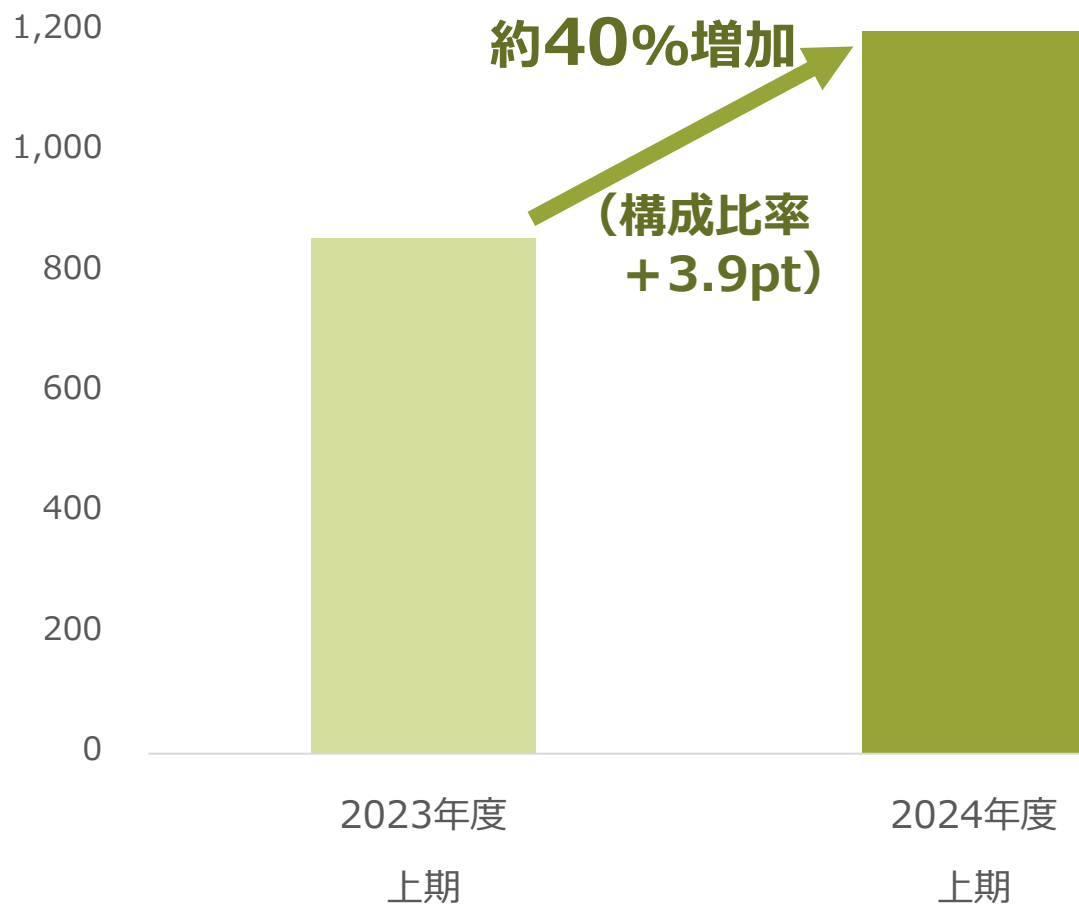
中薬研究センター
機能拡充

中成薬エビデンス
構築

- ・ 飲片の販売拡大にともなう構成比率の上昇により、生薬PFの原価率が改善
- ・ M&Aを含めた販路拡大と飲片付加価値サービスにより、顧客の開拓を進める

(百万円)

飲片の売上高



飲片のさらなる販路拡大
(M&Aも交渉中)



病院・薬局、
オンライン販売等

飲片付加価値サービス
「一人一方」の拡大



消費者

修治

中医学の理論に基づき、飲片の薬効の変化や毒性の低減、保管を目的に、「蒸す」「煮る」「炒る」などの加工を施すこと

原料生薬



生薬名：白朮 (ビャクジユツ)

修治後の飲片



焦白朮

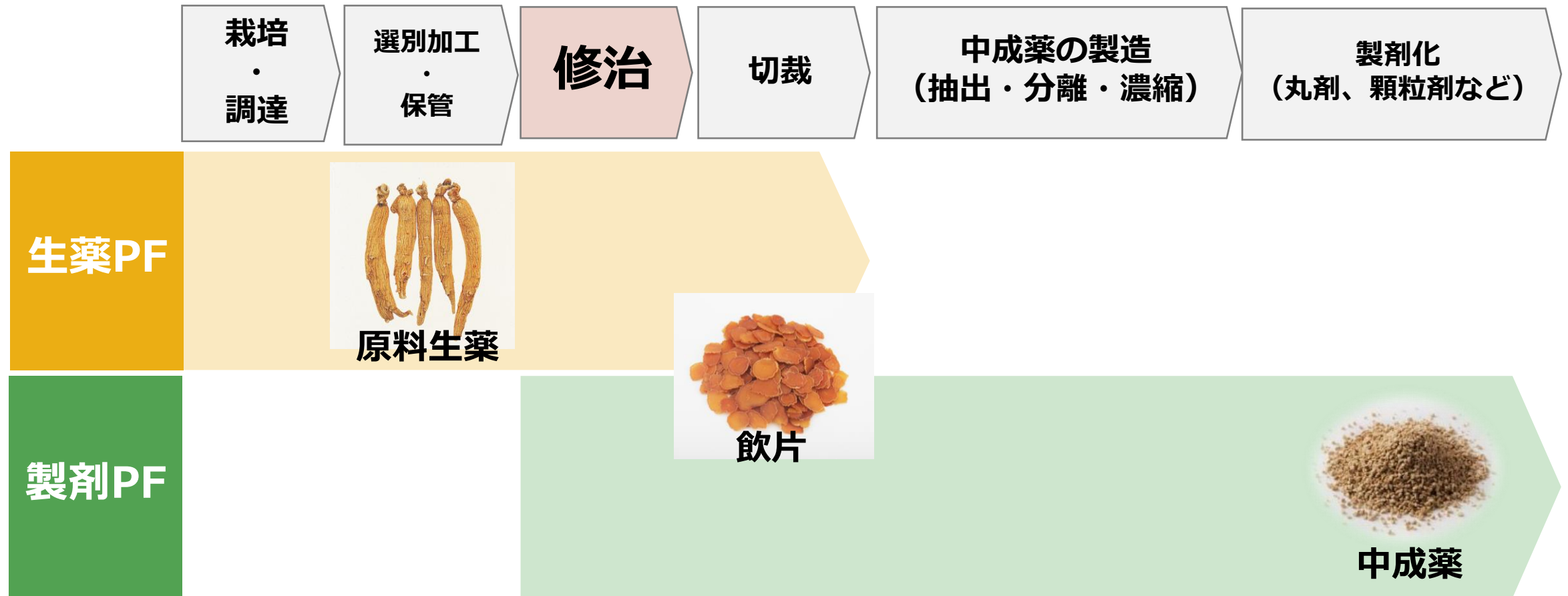
麸炒白朮

外資企業は外商投資規制により、「修治」加工ができない

2024年9月8日 規制解除通知の公布（11月1日施行）

修治が可能となったことにより、すべての製造工程をツムラグループで実施可能に

【飲片・中成薬の製造工程】



カーボンニュートラルの実現

- ・ 製造拠点への太陽光発電導入
- ・ CO₂フリー電力への切替

ツムラサーキュラーエコノミーの構築

- ・ エキス抽出水の循環利用
- ・ バスハーブ容器バイオプラ化

サステナビリティに関する取り組み

TNFD
LEAPアプローチによる
自然関連リスク・機会の評価

ネイチャーポジティブの実現

土佐ツムラの森
林野庁「森林×Actチャレンジ
2024優秀賞」受賞

地域・社会リレーションの構築

01

長期経営ビジョン2031の実現に向けて

02

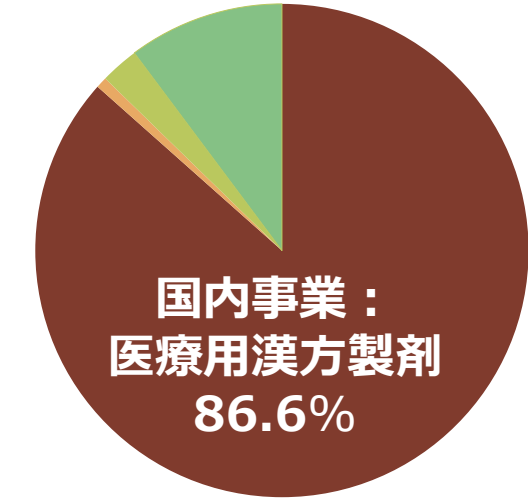
2024年度 第2四半期（中間期）決算概況

2024年度 第2四半期（中間期） 決算概況



【百万円】	2024年度 2Q計画	2024年度 2Q実績	達成率	前年同期比	
				金額	増減率
売上高	89,700	89,071	99.3%	+13,768	+18.3%
国内事業	79,600	79,973	100.5%	+13,842	+20.9%
中国事業	10,100	9,097	90.1%	△74	△0.8%
営業利益	19,300	21,075	109.2%	+10,863	+106.4%
国内事業	19,500	21,196	108.7%	+10,770	+103.3%
中国事業	△200	△121	—	+93	—
経常利益	19,300	23,402	121.3%	+10,727	+84.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益	14,200	17,502	123.3%	+8,497	+94.4%
PL換算レート*（円/元）	—	21.07	—	+1.61	—

売上高構成比率



- 中国事業：生薬プラットフォーム 10.2%
- 国内事業：一般用漢方製剤等 2.5%
- 国内事業：その他 0.7%

* 期中平均レートであり、原料生薬の輸入レートとは異なります。

売上高は国内事業は計画を達成、中国事業は未達、各利益は計画を達成

売上高	89,071 百万円	上期計画達成率	99.3%	前年同期比	+18.3%
------------	-------------------	---------	-------	-------	--------

- 国内事業 医療用漢方製剤（129処方） : 77,101百万円 前年同期比 21.0%伸長
- 一般用漢方製剤等 : 2,226百万円 前年同期比 27.1%伸長
- 中国事業 原料生薬、飲片、「薬食同源」製品等 : 9,097百万円 前年同期比 0.8%減少

営業利益	21,075 百万円	上期計画達成率	109.2%	前年同期比	+106.4%
-------------	-------------------	---------	--------	-------	---------

営業利益率	23.7 %	上期計画比	+2.2pt	前年同期比	+10.1pt
--------------	---------------	-------	--------	-------	---------

- 原価率 : 48.5% 上期計画比 △1.1pt、前年同期比 △5.8pt
 対計画 : 加工費の低減、採用・設備保全の期ズレ等 対前年 : 円安、加工費の上昇等の影響を薬価改定で吸収
- 販管費率 : 27.8% 上期計画比 △1.1pt、前年同期比 △4.4pt
 対計画 : 研究開発費の期ズレ等 対前年 : 主に売上高の増加の影響

経常利益	23,402 百万円	上期計画達成率	121.3%	前年同期比	+84.6%
-------------	-------------------	---------	--------	-------	--------

- 海外子会社への貸付金等に係る為替差益 : 1,752百万円 前年同期比 △228百万円 * 為替差益は業績予想には織り込んでおりません

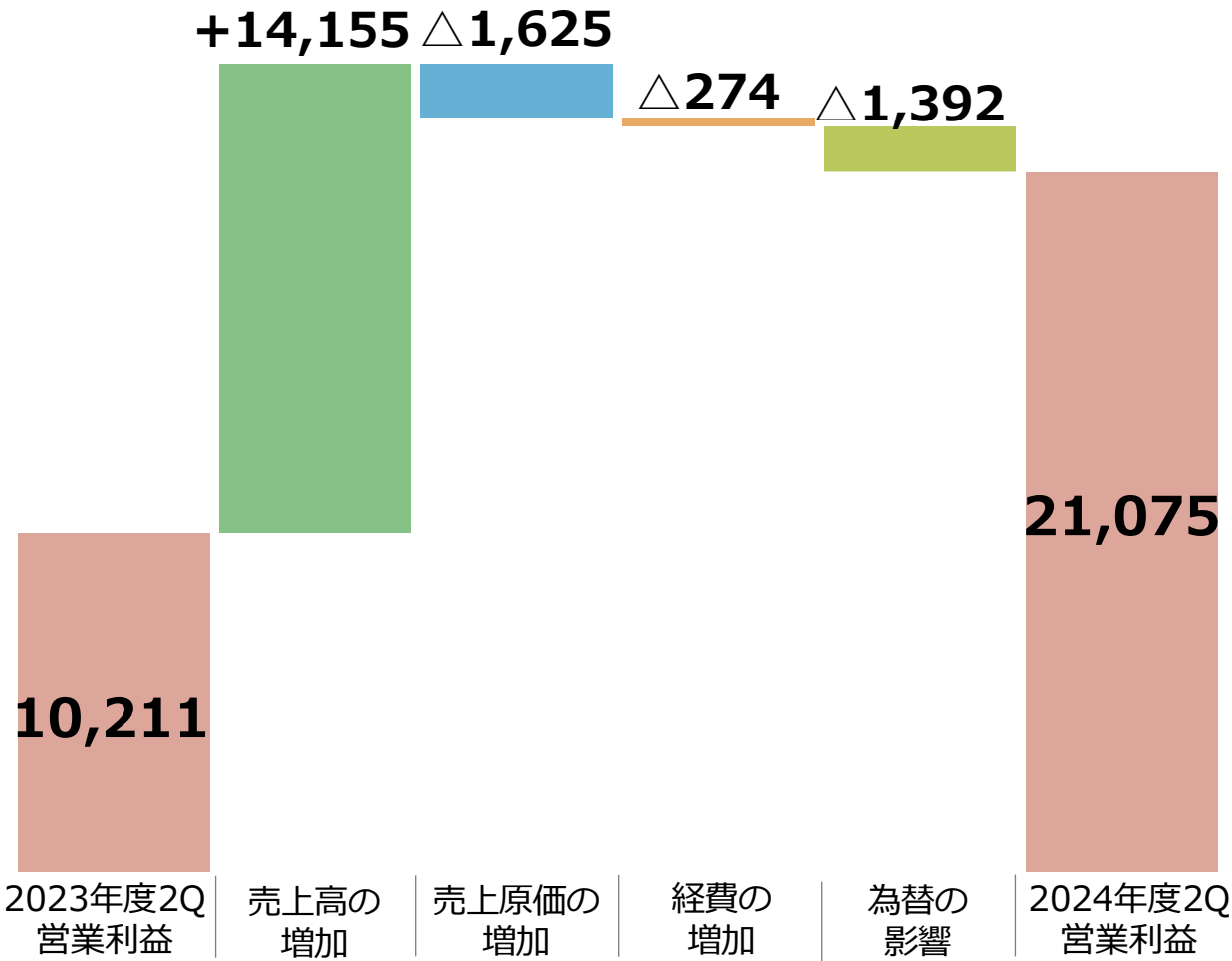
親会社株主に帰属する

中間純利益	17,502 百万円	上期計画達成率	123.3%	前年同期比	+94.4%
--------------	-------------------	---------	--------	-------	--------

- 政策保有株式売却益 : 1,813百万円 前年同期比 +1,813百万円 * 政策保有株式の売却益は業績予想には織り込んでおりません

営業利益の増減要因（前年同期比）

（百万円）



（百万円）

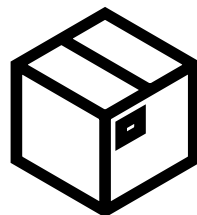
売上高の増加 +14,155百万円	
国内事業（薬価改定、販売数量、販売構成）	+14,259
中国事業	△104
売上原価の増加 △1,625百万円	
国内事業：生薬調達コスト	△220
国内事業：原資材費	△319
国内事業：加工費等	△1,139
中国事業：売上高構成比率の減少	+54
経費の増加 △274百万円	
減価償却費	△240
研究開発費	+2
販売促進費	+111
その他	△147
為替（円安）の影響 △1,392百万円	

- ・ 営業CFの強化に加え、B/S改善によりキャッシュを創出し、事業のさらなる成長と株主還元に配分
- ・ 売掛金のサイトの短縮と政策保有株式の縮減により、約116億円を創出

売掛金回収サイトの短縮

■ 目標

売掛金の回収サイトを
取引先との交渉のうえ
段階的に約2割短縮



■ 進捗

- ・ 回収サイトの短縮は順調に進捗
- ・ 売掛金の圧縮効果
約90億円

政策保有株式の縮減

■ 目標

原則ゼロとする方針のもと、
今年度より本格的に縮減を実現し、
早期に半減



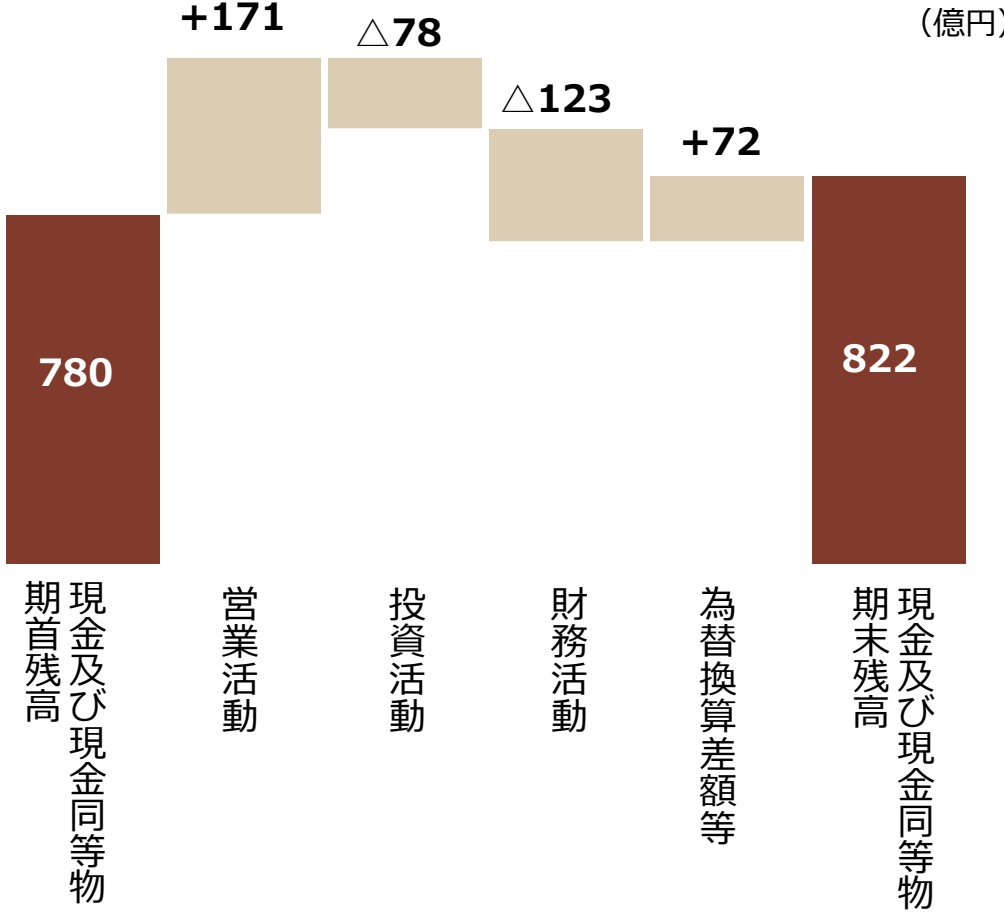
■ 進捗

- ・ 今年度の売却額は約26億円
(政策保有株式の総額は15%減少)
- ・ 早期の半減を目指し、
下期に取り組みを加速

(百万円)

	2023年度 (2024.3)	2024年度 2Q	増減額
資産合計	428,254	453,462	25,208
流動資産	281,292	300,784	19,491
固定資産	146,961	152,678	5,716
負債合計	132,889	129,588	△3,300
流動負債	68,557	55,715	△12,841
固定負債	64,332	73,872	9,540
純資産合計	295,364	323,873	28,509
自己資本比率	63.2%	64.9%	+1.7pt

	2023年度 (2024.3)	2024年度 2Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	117,617	131,492	13,875	7,422
商品及び製品	12,139	14,080	1,941	369
仕掛品	18,309	19,554	1,244	263
原材料及び貯蔵品	87,168	97,857	10,689	6,790



安定供給体制のさらなる強化に向けた投資（設備投資）

- 安定供給体制のさらなる強化と生産性向上に向け、2024年度は340億円の設備投資を予定
- 一部支払時期の期ズレはあるものの、投資はおおむね計画通り進捗

目的	主な投資内容	投資予定額			投資期間
		2024年度 計画	2024年度 上期支払額	総額	
生産能力の増強・ 生産性向上 (漢方エキス粉末 製造工程)	上海工場 (リニューアル)	10億円	6億円	30億円	2021年度～2024年度
	天津工場 (2期、3期)	95億円	37億円	250億円	2021年度～2026年度
	茨城工場 (第4SD棟)	75億円	2億円	300億円	2024年度～2026年度
生産能力の増強・ 生産性向上 (造粒・包装工程)	造粒包装棟	30億円	1億円	※投資総額の機関 決裁は下期以降	2024年度～2027年度
保管能力の増強・ 生産性向上	茨城工場 (第3生薬棟)	25億円	0億円	80億円	2024年度～2026年度
	夕張ツムラ (生薬倉庫)	15億円	7億円	25億円	2023年度～2025年度
その他 (ライン増設、更新、生産性向上等)		90億円	28億円	—	—
合計		340億円	81億円	—	—

- ・ 新設した天津工場の1期およびリニューアルが完了した上海工場で、計画を上回る生産量を確保



新設した天津工場

天津工場（中国 天津）

1期	・ 2023年11月から国内工場へ出荷を開始 ・ 2024年度2Qからフル稼働
2期	・ 2024年11月末に竣工式を開催予定 ・ 2025年の本稼働、2027年にフル稼働予定
3期	・ 2026年に竣工し、2027年の本稼働、 2028年にフル稼働予定

上海工場（中国 上海）

1SD	・ リニューアル工事は8月末に完了し、稼働と出荷を再開
2SD	・ 通常通り稼働中

- 茨城工場において、生産能力の増強のため第4SD棟および第3生薬棟の建設を開始
- 新たに開発したロボットや自動化技術を導入した最新鋭の設備

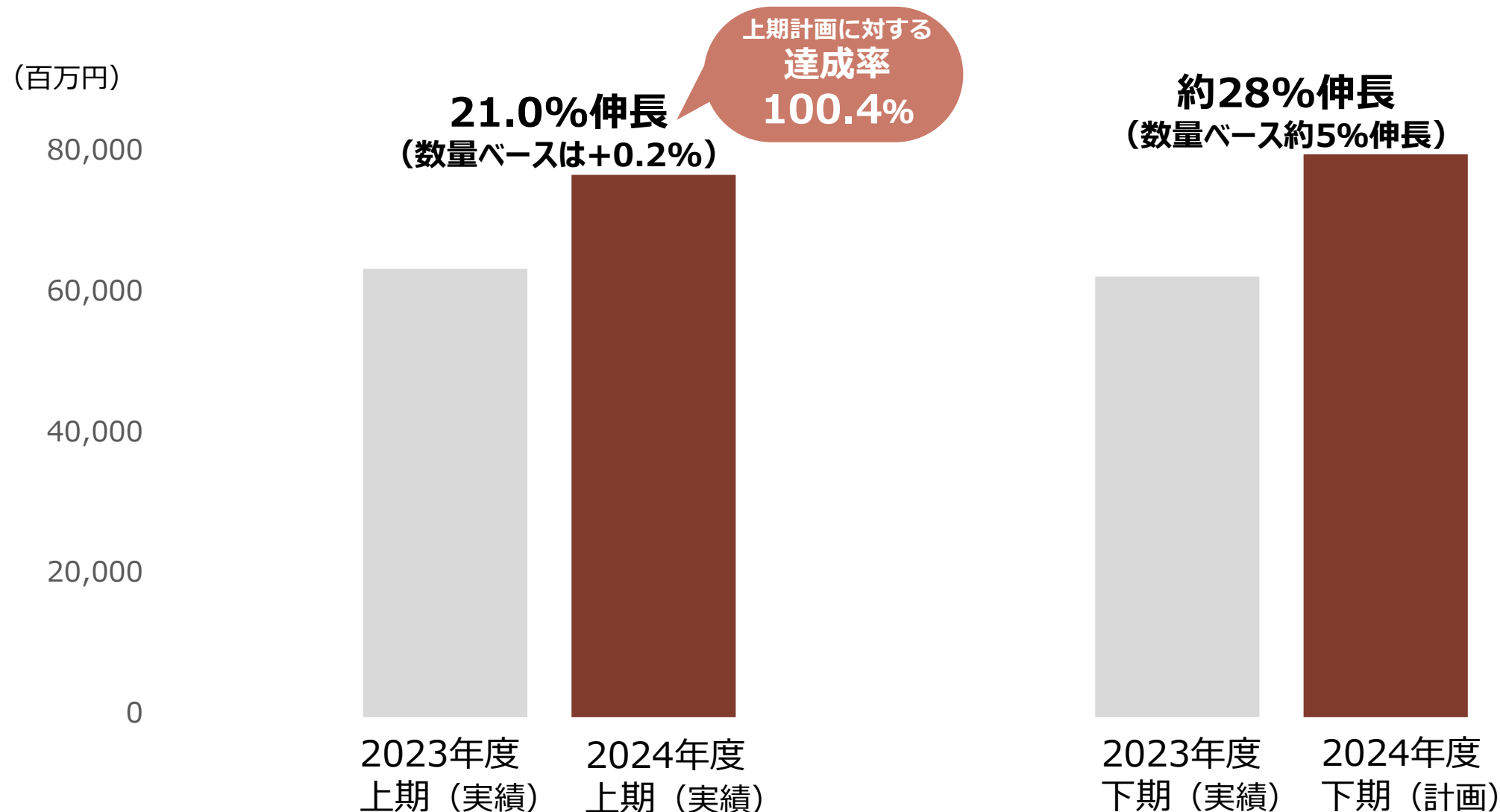


茨城工場：完成イメージ

茨城工場（日本 茨城）

名称	第4SD棟	第3生薬棟
投資額	約300億円	約80億円
階数	7階建て（41メートル）	2階建て（33メートル）
機能	漢方エキス粉末 （中間製品）の製造 製造能力：950t/年	原料生薬の保管 保管量：1,000t
竣工時期	2027年度末	
特徴	- 新たに開発した自動化技術の導入による大幅な省人化 - 品目切り替え時の洗浄時間の短縮など ➡労働生産性は1.7倍 ※第4SD棟を第3SD棟と比較	

- 医療用漢方製剤（129処方）の売上高、数量ともに上期計画を達成
- 下期は限定出荷の解除とプロモーションの強化により年間計画の達成を目指す

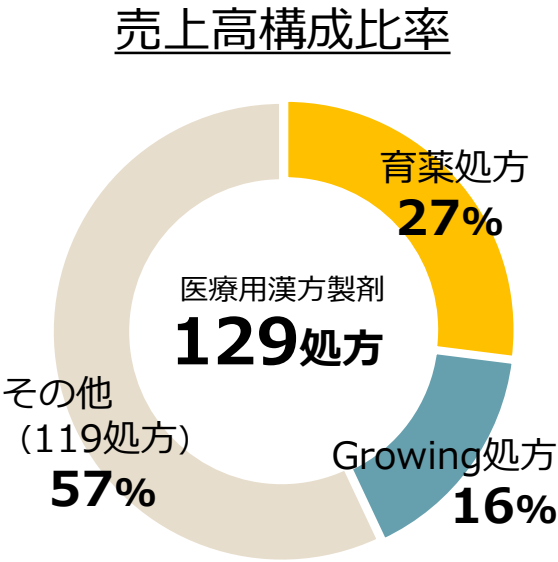


国内事業：育薬処方・Growing処方 売上高



(百万円)

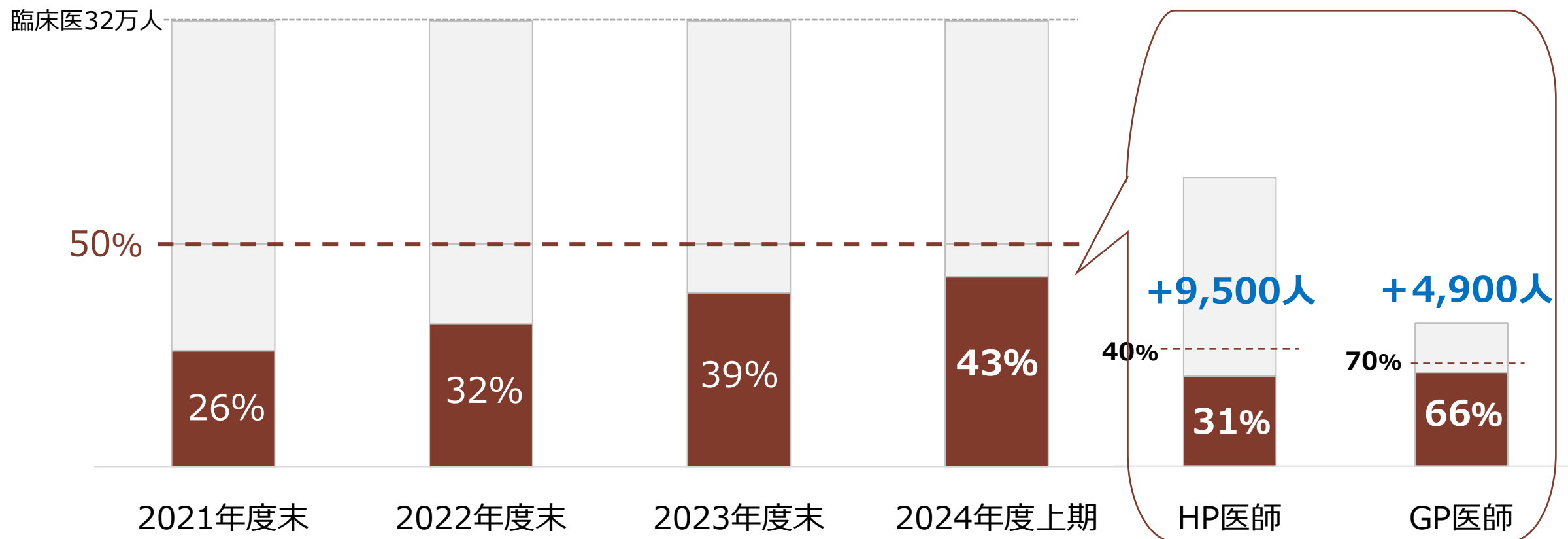
	売上 順位	製品No. / 処方名	2023年度2Q	2024年度2Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯 ※	4,937	7,510	+2,573	+52.1%
	2	54 抑肝散 ※	3,819	5,816	+1,996	+ 52.3%
	5	43 六君子湯	3,685	3,581	△104	△2.8%
	8	107 牛車腎気丸 ※	1,836	2,830	+993	+54.1%
	26	14 半夏瀉心湯	716	726	+9	+1.3%
育薬処方合計			14,996	20,465	+5,468	+36.5%
Growing 処方	3	41 補中益気湯	4,109	3,937	△171	△4.2%
	4	17 五苓散	3,674	3,897	+223	+6.1%
	9	24 加味逍遙散	2,578	2,441	△136	△5.3%
	18	137 加味帰脾湯	1,161	1,125	△35	△3.1%
	19	108 人參養栄湯	1,127	1,085	△42	△3.8%
Growing処方合計			12,650	12,487	△162	△1.3%
育薬・Growing処方以外の119処方合計 ※			36,074	44,149	+8,074	+22.4%
医療用漢方製剤129処方合計			63,720	77,101	+13,381	+21.0%



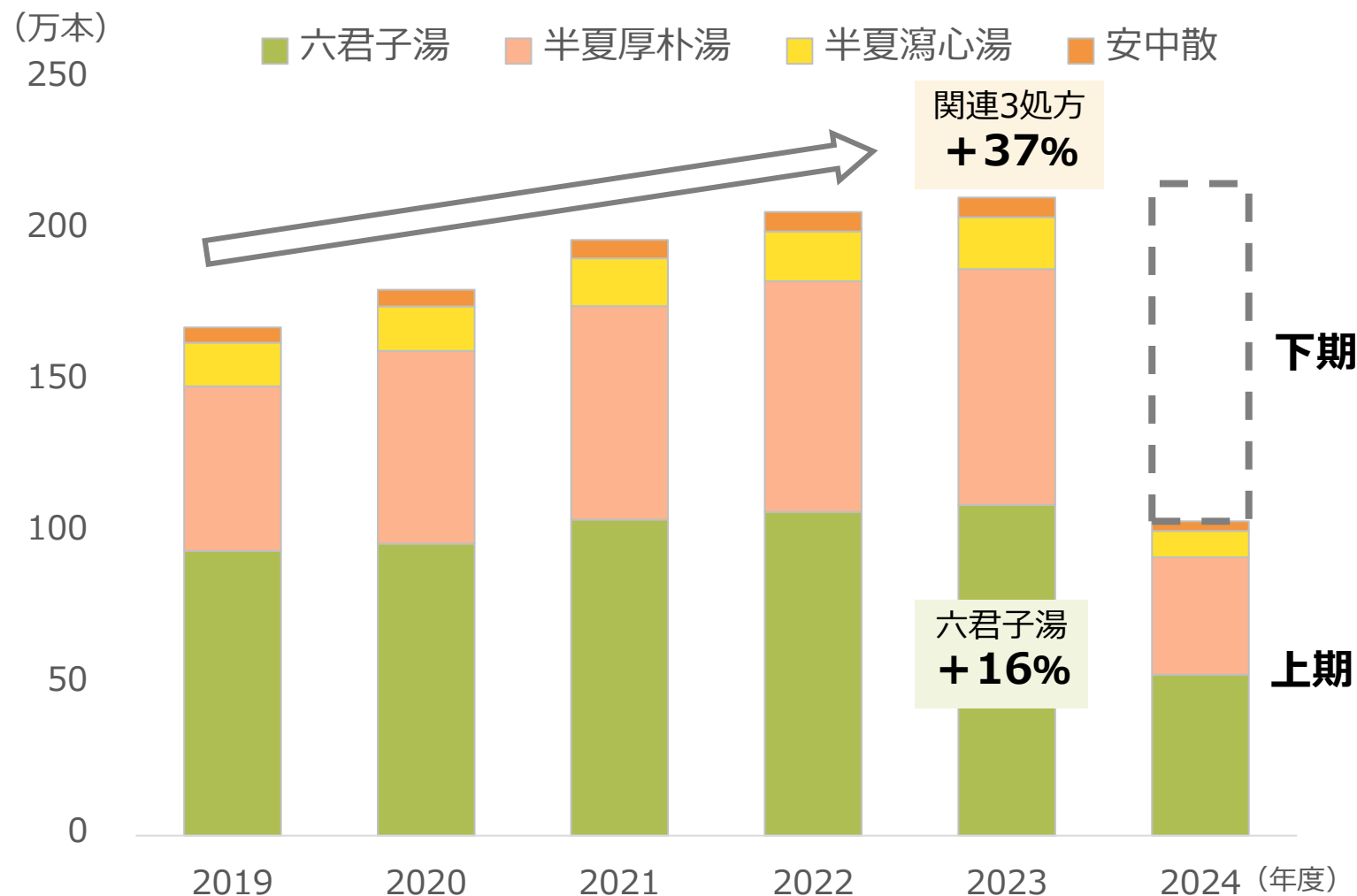
※不採算品再算定の適用を受けた処方
66品目（育薬3処方＋その他63処方、
改定率：+36.2%～+50.7%）

- ・ e-プロモーションの強化により、10処方以上を処方する医師はHPで大きく増加
- ・ 10処方以上を処方する医師が50%以上になる医療現場の実現を目指す

10処方以上を処方する医師数の推移 *当社調べ



漢方製剤の使い分けの訴求により、戦略処方に加えて関連処方も伸長



使い分け資材の一例

上部消化管症状に対する漢方の使い分け

43

リックンシトウ
六君子湯

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：

胃炎、食欲不振に

16

ハンゲコウボクトウ
半夏厚朴湯

気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う次の諸症：

不安神経症、神経性胃炎に

14

ハンゲシヤシントウ
半夏瀉心湯

みぞおちがつつかえ、ときに悪心、嘔吐があり食欲不振で腹が膨らんで軟便または下痢の傾向のあるものの次の諸症：

胸やけ、下痢、消化不良に

5

アンチュウサン
安中散

やせ型で腹部部肉が弛緩する傾向にあり、胃痛または腹痛があって、ときに胸やけ、げっぷ、食欲不振、はきけなどを伴う次の諸症：

神経性胃炎、慢性胃炎に

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
1. アルドステロン症の患者
2. ミオパチーのある患者
3. 低カリウム血症のある患者
[1~3: これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

- 中国事業売上高は上期計画に対して未達だが、販管費の削減により営業利益は上期計画を上回る
- 通期では中国事業営業利益の黒字化を目指す

中国事業	売上高	90.9億円
------	-----	--------

生薬PF	営業利益	4.4億円
------	------	-------

製剤PF関連、IT基盤投資等	経費等
----------------	-----

中国事業	営業利益	△1.2億円
------	------	--------

伸長率（前年同期比）
▲5.7%

原料生薬



原料として、
中成薬メーカーへ販売

伸長率（前年同期比）
+40.2%

飲片



病院や薬局へ
医療用やOTCとして販売

生薬PFの主要製品

2024年度 業績予想（変更なし）

通期計画に対して概ね順調に進捗しており、現時点では業績予想の変更なし

【百万円】	2024年度 上期実績	2024年度 通期予想	進捗率
売上高	89,071	185,000	+48.1%
国内事業	79,973	163,400	+48.9%
中国事業	9,097	21,600	+42.2%
営業利益	21,075	39,500	* +53.4%
国内事業	21,196	39,490	+53.7%
中国事業	△121	10	—
経常利益	23,402	39,500	+59.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,502	28,500	+61.4%
PL換算レート（円/元）	—	21.00	—

EPS	230.51円	375.35円
1株当たり配当金	68円	136円

- * 営業利益の進捗率が高い要因
- 営業利益の計画は上期に偏重
安定供給体制の強化に向けた
経費を下期に多く使用する計画
 - 経費の削減（原価、販管費）
製造トラブル発生率の低減、
保全費の見直し、水の再利用等

コーポレート・コミュニケーション室

I R推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

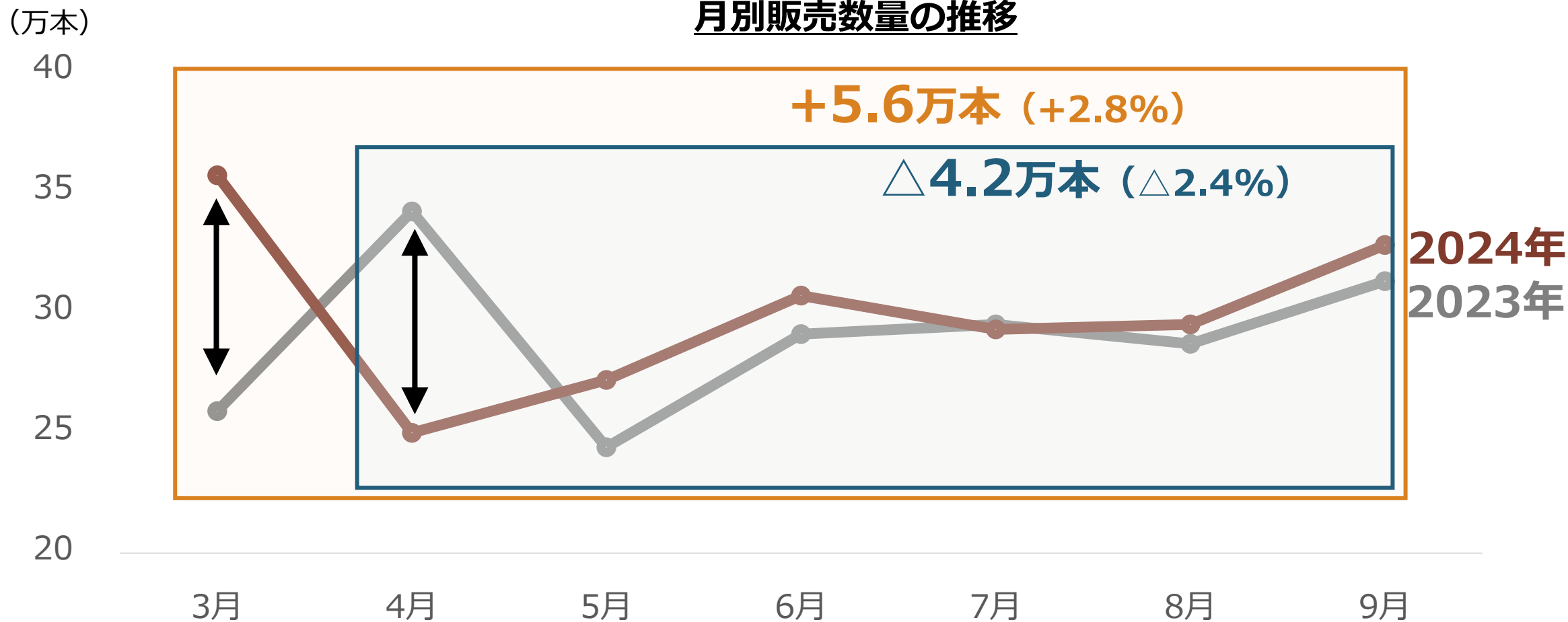
本資料に関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含んでおります。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により販売中止、または売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。
- 本資料には、医薬品（開発品目を含む）に関する情報が含まれておりますが、それらは宣伝広告、医学的なアドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料において提供される資料ならびに情報は、予告なしに、変更・追加・削除されることがあります。

Appendix

- ・ 4～9月（累計）では、3月に発生した前倒し注文の影響により前年同期を下回る
- ・ 3～9月（累計）は前年同期比プラス5.6万本と堅調に推移

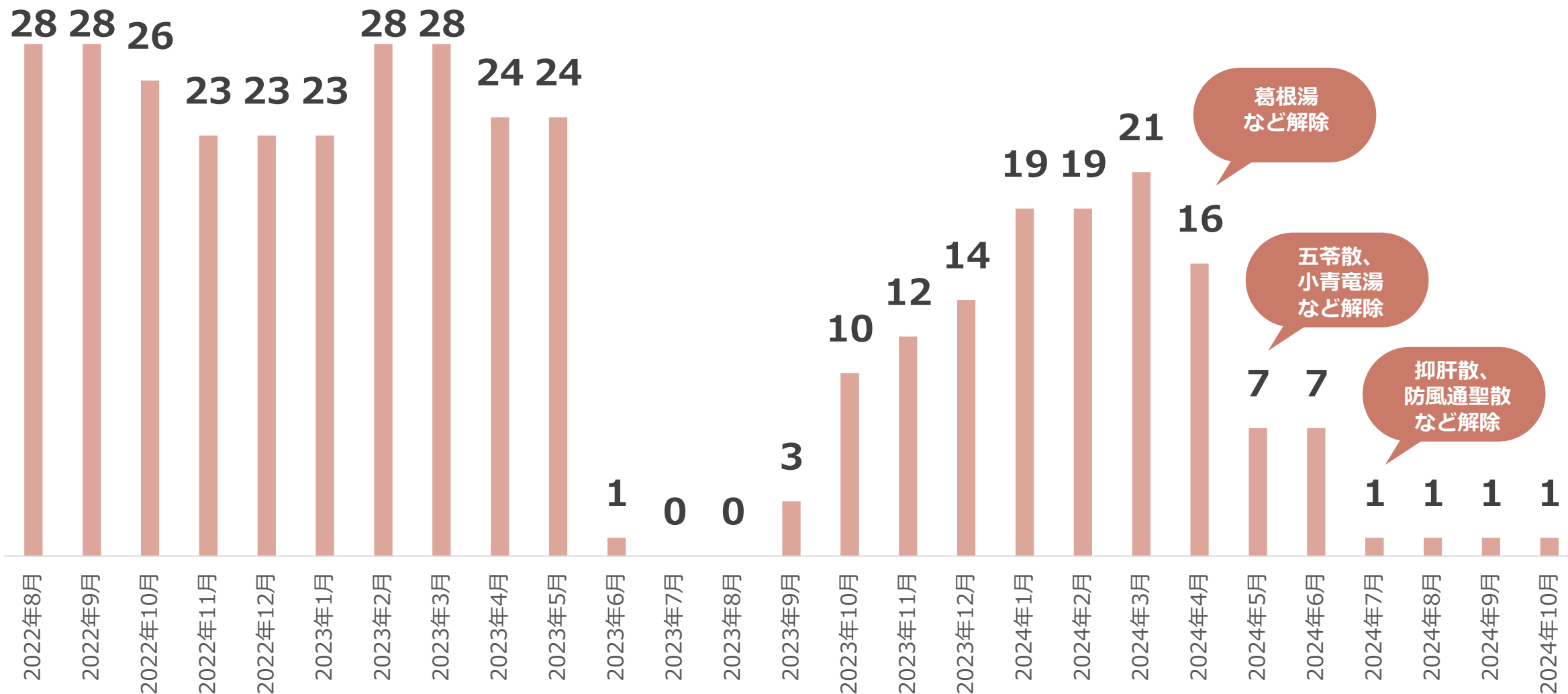
6処方（六君子湯、半夏瀉心湯、補中益気湯、加味逍遙散、人參養栄湯、加味帰脾湯）の 月別販売数量の推移



※1本は標準包装1箱（1箱は9週間分入）

国内事業：医療用漢方製剤（129処方）限定出荷品目数の推移

- ・ 11月8日時点では1処方（麦門冬湯）
- ・ 生産能力の増強により、早期の解除を目指す



- ・ 2023年度は工場の稼働停止などの特殊要因により、Qごとに大きな変動が発生
- ・ 2024年度は2Qまでに特殊要因の発生なし

